

## 論文

# 母性看護学演習における妊産褥婦への保健指導課題学習の 学習効果

井上 理絵<sup>1)</sup>、富岡 美佳<sup>1)</sup>、梅崎 みどり<sup>1)</sup>

Rie Inoue, Mika Tomioka, and Midori Umezaki

キーワード：母性看護学演習，保健指導，学習効果

Key words: Maternal nursing practice, Health guidance, Learning effect

要旨：母性看護学は、必要な知識が多岐にわたることや対象理解をするのが難しく、また経験がないことをアセスメントする難しさなど学習に困難をきたしやすいとされている。加えてウェルネスの視点が難しいことや、活用できる社会的支援が理解しにくいなど、他の科目とは視点を変えて学ぶ難しさがある。

そこで今回、周産期における母子の健康指導を理解する目的で、学内で課題として制作したパンフレットの学習効果を検討した。インターネット利用が多く、パンフレット作成時の使用文献の少ないことが明らかとなり、文献使用の必要性の教授など、新たな課題が明らかとなった。また、机上の学習が臨地実習に活用できるようにする工夫として、パンフレットの作成、パンフレットを活用した保健指導演習は有効であったことから、臨地実習でのパンフレット活用が広げられるように支援していく必要があった。

### I. はじめに

平成 23 年 3 月、文部科学省より「大学における看護系人材育成の在り方に関する検討会最終報告」<sup>1)</sup> が出された。その中で「看護実践能力の養成における課題」として、看護師等には、主体的に考え行動することができ、保健、医療、福祉等のあらゆる場において看護ケアを提供できる能力が求められている。また、チーム医療の調整役として、これまで以上に高度なコミュニケーション能力も要求されることになり、大学における看護基礎教育の重要性が問われている。

看護基礎教育の中における母性看護学では、すべてのライフステージにある女性と家族を対象とし、対象者みずから健康の保持・増進に努めることができるよう援助することを目的としている。その基盤にはプロダクティブヘルス/ライツの理念があり、多様化している女性のライフスタイルの変化をも視野に入れた対応が肝要となっている。つまり他の領域同様に、あらゆる健康の段階にある人々に対して看護を提供するが、健康レベル

---

1) 山陽学園大学看護学部看護学科

やセルフケア能力が高く、自己決定権を持つ人々が多く含まれる<sup>2)</sup>点に特徴がある。すなわち、対象の家族（胎児も含めた）も含め、対象者の持てる力が引き出せるように促し、女性および家族の生活を整える援助過程を母性看護ととらえることができる。

母性看護学では、健康でセルフケア能力が高い対象へ、より効果的な保健指導を提供しウェルネスな思考で看護展開をすることが求められる。しかし現状では臨地での実習期間が短いため、実習期間内に指導技術を高めることが困難であり、学んだ内容を受け持ち対象者へ保健指導として実施することに関しては自信が持てない学生の多いことが課題である。そこで周産期における母子支援の看護技術力の効果を高めるため、保健指導で使用するパンフレットの作成を、学内での学びの一つに取り入れた学習を開始した。この学習では、パンフレット作成を行うことにより母性看護学実習準備の一助となり、また学習意欲の向上と、実習でのイメージをつけることができることが期待できる。本研究では、母性看護学演習における妊産褥婦への保健指導課題学習の学習効果を検討する。

## II. 研究目的

母性看護学援助論を履修し、母性看護学実習の準備を行う学生が、テーマ別にパンフレットを作成し、保健指導演習を行うことで、周産期における母子の保健指導を理解し、実践がどのようにイメージできているか、保健指導演習の学習効果を明らかにする

## III. 研究方法

### 1. 研究対象

A大学3年次生 71名  
(男子7名、女子62名、無記名2名)

対象の年齢

平均 20.4 ±0.6SD [20-23]

### 2. 研究期間

2013年7月～8月

### 3. 研究方法およびデータ収集方法（図1）

1) 母性看護学援助論の講義計画発表時に、学習課題として「保健指導用パンフレット」を作成することを説明（表1、2、3）。

2) 各学生に、妊娠、分娩、産褥、新生児各期の中の1テーマを個人課題として提示しパンフレットを作成。

3) 授業時間内に各自が作成したパンフレットを発表する。

4) 各自の作成したパンフレット発表後、質問紙調査を行い、パンフレットの作成期間、文献使用数、及びパンフレット作成で得た学習効果を調査。

## IV. 倫理的配慮について

演習終了後、実習終了後、双方とも対象学生には、本研究の概要を文書と口頭で説明しており、調査内容が成績評価に関与しないことを提示したうえで依頼を行った。本研究はA大学研究倫理委員会の許可を得て実施している。

### 保健指導課題学習の流れ

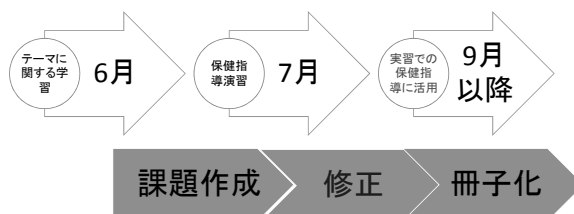


図1 保健指導課題学習の流れ

表1 学習課題「保健指導用パンフレット」内容 (1)

#### <妊娠期>

1. 生理的变化	2. 生活	3. 異常
1) 妊娠初期の心と体	1) 便秘	1) 悪阻
2) 妊娠中期の心と体	2) つわり	2) 切迫流産、切迫早産
3) 妊娠後期の心と体	3) 妊婦の姿勢・日常生活の注意事項	3) 妊娠高血圧症候群(PIH)
4) 妊娠期における乳房の変化	4) 衣服・靴	4) 妊娠糖尿病
5) 妊娠初期のマイナートラブル	5) 職業を持つ妊婦	5) 貧血
6) 妊娠中期のマイナートラブル	6) 母子健康手帳と社会資源	6) 妊娠初期に行う検査
7) 妊娠後期のマイナートラブル	7) 妊娠中の乳房ケア	7) 妊娠中期に行う検査
	8) 妊婦とタバコ、妊婦とアルコール、妊婦と薬	8) 妊娠後期に行う検査
	9) 妊娠初期の食事	9) 肥満妊婦、やせ妊婦
	10) 妊娠中期の食事	10) 胎盤の異常
	11) 妊娠後期の食事	11) 帝王切開を受ける妊婦の指導
	12) 里帰り出産	12) 心疾患を持つ妊婦の指導
	13) パースプラン	13) 多胎妊婦への指導
	14) 出産準備教育	14) 胎児発育不全で入院中の妊婦への看護
	15) 楽なお産に向けての準備	
	16) 妊婦と運動	
	17) きょうだいへの対応	38項目

表2 学習課題「保健指導用パンフレット」内容 (2)

## ＜分娩期＞

1. 生理的变化	2. 生活	3. 異常
1) 分娩の機序、分娩の経過	1) 産痛緩和法	1) 会陰裂傷
2) 産婦の身体的変化(分娩が近づいた徴候)	2) 無痛分娩・和痛分娩	2) 帝王切開術後の過ごし方
3) 胎児に及ぼす影響(胎児心拍数・応形機能)	3) 分娩の進行を促進させるポイント	3) 母子分離中の育児支援
4) 産婦の心理・社会的変化	4) 産後経験する疼痛への対処	4) 分娩時異常出血
	5) 分娩直後の過ごし方	5) 分娩誘発
		6) 分娩遷延
		7) 前期破水
		8) 胎児機能不全
		9) 吸引分娩
		18項目

表3 学習課題「保健指導用パンフレット」内容 (3)

## ＜産褥・新生児期＞

1. 生理的变化	2. 生活	3. 異常
1) 産褥期の身体的変化(退行性変化)	1) 出産後1ヶ月までの生活	1) 子宮復古不全
2) 産褥期の身体的変化(進行性変化)	2) 母乳育児支援	2) 産褥期の発熱
3) 産褥期の心理的变化(マタニティブルーを含む)	3) 母乳育児支援(乳汁分泌促進、適した食事)	3) 精神障害(産後うつ病・産褥精神病)
4) 母親役割の獲得	4) 母乳育児支援(授乳時の姿勢、効果的ラッチオン、授乳量の目安)	4) 乳首のトラブル
5) 家族の心理的变化(パートナー・きょうだい・祖父母)	5) 育児技術(おむつ交換、更衣、あやし方)	5) 高ビリルビン血症
6) 子宮外適応現象(呼吸、循環、体温)	6) 児の身体の清潔	
7) 子宮外適応現象(消化と吸収ビリルビン代謝と生理的黄疸、新生児の免疫)	7) 児の健康管理	
8) 新生児の哺乳状態の評価	8) 育児不安	
	9) 職場復帰	
	10) 退院から1ヶ月健診までの生活	
	11) 退院後の育児支援	
		24項目

V. 結果

1. パンフレット作成について

パンフレットの作成に要した日数は、1日以内 32人 (45.1%)、2～3日 31人 (43.7%)、4日～1週間以内 4人 (5.6%) であった。8日以上は0人 (0%) であった (図2)。また、パンフレット作成に使用した文献数は1冊以内 23人 (32.4%)、2～3冊 36人 (50.7%)、4～5冊 7人 (9.9%) であった (図3)。文献の入手方法は、インターネット 55人 (41.7%)、テキスト等 48人 (36.4%)、学内図書館の利用 18人 (13.6%) であった (図4)。

パンフレット作成に要した期間は1日以内が最も多く、作成に使用した文献数は2～3冊が半数以上であった。また、約4割の学生がインターネットを利用して文献の検索をしていた。

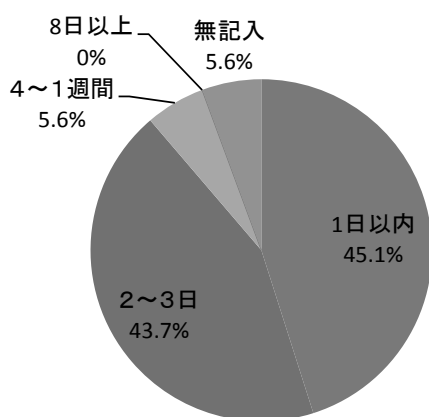


図2 パンフレット作成に要した日数

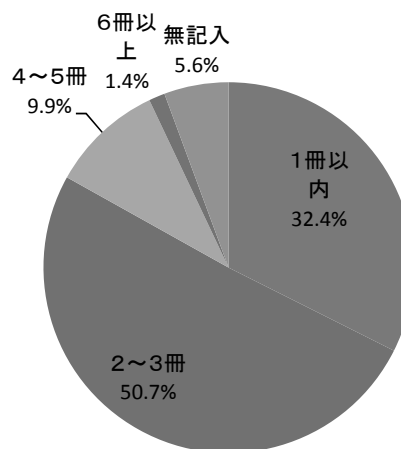


図3 パンフレット作成に使用した文献数

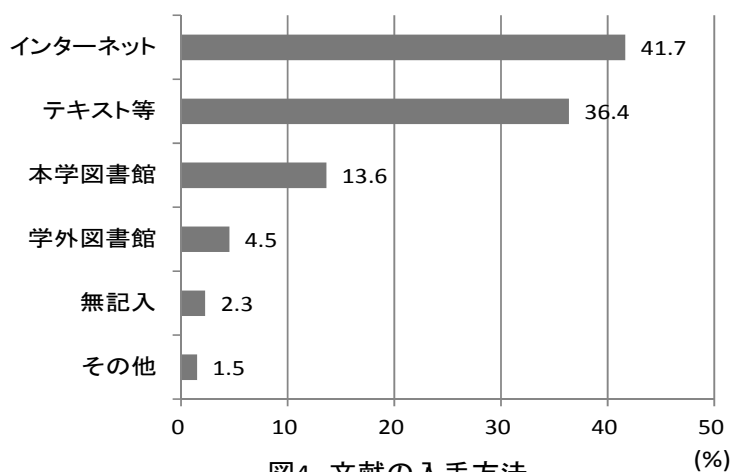


図4 文献の入手方法

2. パンフレット作成による学習効果について

パンフレット作成による学習効果について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4検法で確認した。「身体的特徴が理解できた」「心理的变化が理解できた」「役割取得が理解できた」「胎児・新生児の

成長発達が理解できた」以上4項目で「そう思う」と回答したのは「身体的変化が理解できた」32人(46.4%)、「心理的变化が理解できた」25人(36.2%)、「役割取得が理解できた」24人(34.8%)、胎児・新生児の成長発達が理解できた」26人(23.2%)であった(図5)。この4項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した学生を合わせると、どの項目も80~90%の学生が学習効果があったと回答していた。

マタニティサイクルにある対象への看護実践の準備について、6項目を4検法で質問した。「そう思う」と回答したのは、「命の尊厳や倫理的配慮について理解できた」34名(48.6%)、「保健指導の必要性について理解できた」31名(44.3%)、「保健指導の内容が理解できた」28名(40.0%)であった。また、6項目それぞれについて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した学生を合わせると、どの項目も80~90%が肯定的な意見であった(図6)。

学習者としての学びについて、8項目を4検法で質問した。「そう思う」と回答したのは、「正しい知識と技術が必要だ」59名(83.1%)、「保健指導実践には対象者の理解が必要だ」57名(80.3%)、「パンフレット作成で新たな知識が得られた」48名(67.6%)であった。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人数を合わせると、8項目とも70~90%が肯定的な意見であった(図7)。また、対象者に伝えるためには正しい知識・技術が必要であると感じており、指導することの難しさも学べていた。

看護対象者へ学習者が抱いた期待4項目について4検法で質問した。「そう思う」と回答したのは、「周産期で起こる異常を知って欲しい」51名(71.8%)、「周産期のセルフケア能力を高めて欲しい」50名(70.4%)、「周産期で利用できる社会資源を知って欲しい」50名(70.4%)、「周産期の身体的変化を知って欲しい」48名(67.6%)であった。4項目それぞれについて「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人数を合わせると、どの項目も90%以上が肯定的な意見であった(図8)。対象者に対して異常やセルフケアなどの知識を習得してほしいと期待していた。

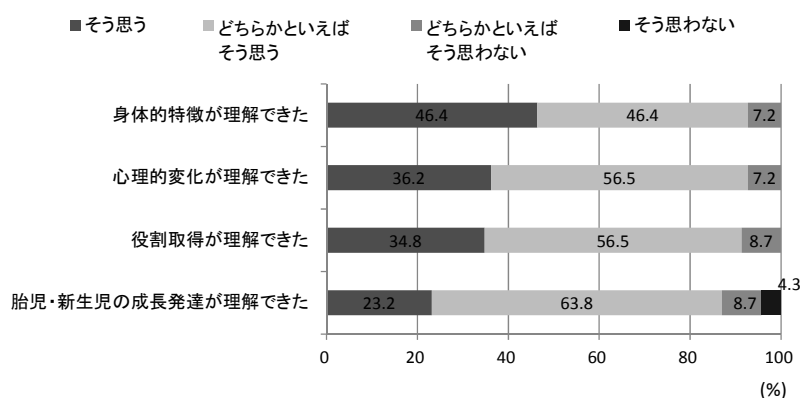


図5 パンフレット作成による学習効果

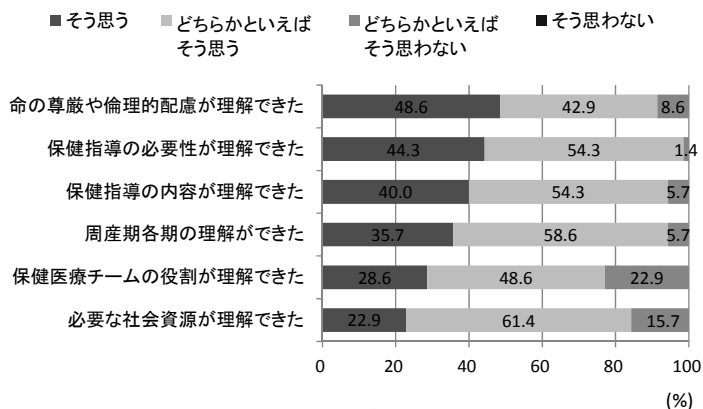


図6 マタニティサイクルにある対象への看護実践の準備

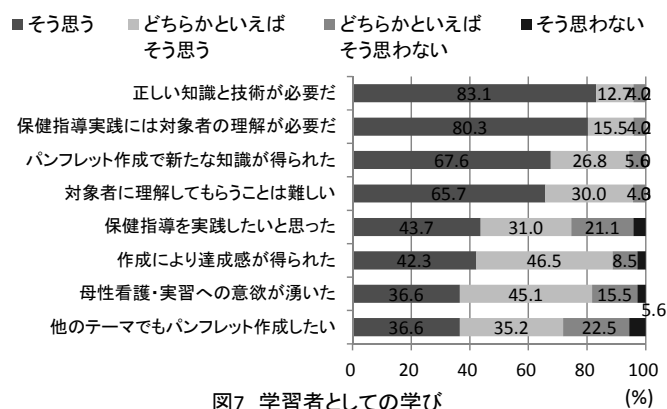


図7 学習者としての学び

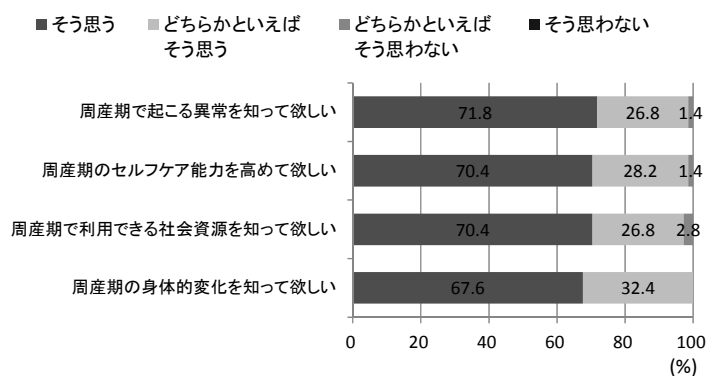


図8 看護対象者へ学習者が抱いた期待

### 3. 保健指導演習における満足度について

保健指導用のパンフレットを用いて保健指導演習を行った満足度については、「大変満足している」7名(9.9%)、「まあまあ満足している」47名(66.2%)、「不満足である」13名(18.3%)であった(図9)。不満足と回答した学生の理由を見ると、「パンフレットを作成することで学習内容の理解は深まったが対象へうまく説明できなかったことに対して不満足であった」、「知識の再確認になったが人に伝える難しさを学んだ」という意

見があった。また、パンフレット作成全体に対して自由記載を見てみると、「難しい・大変」16名（39.0%）、「他の人のパンフレットが勉強になった」6名（14.6%）、「知識の復習・勉強になった」6名（14.6%）などの意見が見られた（図10）。授業で保健指導演習を行うことによって、母性看護・実習への意欲が湧き、実習への準備ができたことを自覚していた。

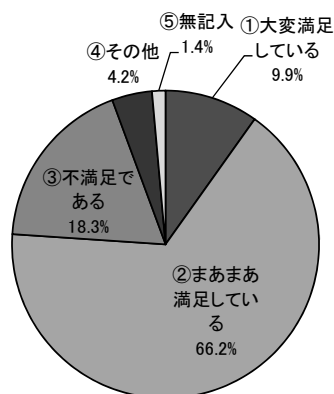


図9 保健指導演習の満足度

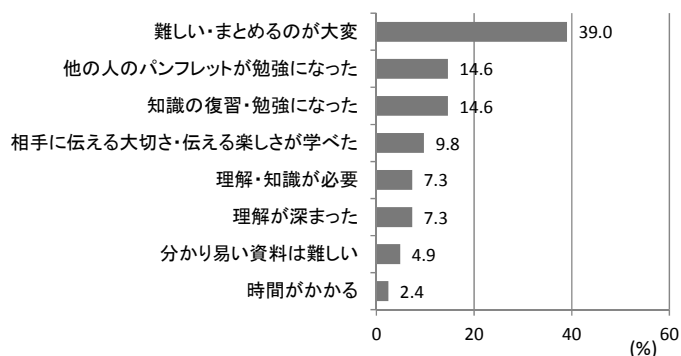


図10 自由記載の内容

## VI. 考察

母性看護学実習では、実際に看護を提供するよりも保健指導をとおして対象と関わることが多い。学内では演習をとおしてだけの学びとなるため、実際のイメージがつきにくいというデメリットがある。学生の実習記録からも「学んだ内容を受け持ち対象者へ保健指導として実施することに関しては自信が持てない」などの意見が見られ、机上の知識から実習へつなげることが課題となっていた。そこで今回、パンフレットを作成することで保健指導の実際をイメージできるような授業展開を行った。

学内での講義後、パンフレットを作成することによって、対象者の「身体的特徴が理解できた」「心理的变化が理解できた」と8割～9割の学生が回答していることにより、知識の再確認ができ、より深い理解につながっていることがわかる。前田は<sup>3)</sup>母性看護学は、基本的には健康障害のない人を看護対象者とし健康志向でとらえるが、学生たちは成人看護学や精神看護学などと同様に問題思考でとらえる傾向にあると述べ「問題がない」ことに混乱する学生が少なくないとしている。臨地実習で看護展開をしていく中で、異常の早期発見という側面よりも、ウェルネスに主眼を置いた看護展開は学生には理解しにくい内容である。そのため学内で対象の理解が深まる保健指導演習は、臨地実習への準備となると考える。机上の知識が実習につながるということが明らかになった。

今回、保健指導演習を実施することで新たな知識が得られていたが、その反面、指導をする難しさも自覚できていた。パンフレットを作成することによって、学習者としてどのような学びができたか質問したところ、「正しい知識と技術が必要」であることや「保健指導実践には対象の理解が必要」であることなどに対し、80%以上の学生が「そう思う」と回答しており、保健指導の重要性が認識できている。特に母性看護学におけるケアの特徴として妊産褥婦に本来備わっている力を引き出し、生理的な現象が順調に進むための援助がメインとなる<sup>4)</sup>と言われており、そのための保健指導内容は、妊産褥婦が自己判断で



きるための知識教育や技術習得教育が多くなる。「対象者に理解してもらうことは難しい」という項目では、90%以上の学生が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している。これは、対象者に分かり易く、正しく伝えるためには、自分の知識・技術が確立していないと保健指導は実施できないことが認識できている、とともらえることができる。また、パンフレット「作成により達成感が得られた」「母性看護・実習への意欲が湧いた」という項目についても「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した学生は80%以上となっており、臨地実習に対して肯定的な準備につながっていることも示唆された。逸見<sup>5)</sup>は学生自身で周囲を観察し健康問題をみつけ、資料を集め、考え、紙面の中に対象者を浮かべながらパンフレットを作成することが発見学習・体験学習・主体的学習となり、看護への動機づけになると述べている。今回の保健指導演習が臨地実習で実践する看護につながる動機づけの一つになったと思われる。

保健指導演習の満足度では、「満足」「まあまあ満足」を合わせると70%以上の学生が肯定的な体験をしていることになり、パンフレット作成によって得た学習体験が肯定的であることが分かった。反面、「不満足」という回答が約2割弱あるが、その理由を見てみると、限られた紙面に指導内容をうまくまとめることができず、対象に伝達できないことに対する不満足であった。これは学習に対する否定的な結果ではなく、発見学習・体験学習からの向上心ともとらえることができる。

しかしながら、パンフレット作成に要した期間と作成に使用した文献数に関しては、多くないという結果であった。また、文献の入手方法では、4割の学生がインターネットでの簡易な方法を使用していることがわかった。近年、インターネットの利用は著しく増え、平成24年末の人口普及率は79.5%となっている<sup>6)</sup>。インターネットは大量の情報流通が可能で、さまざまな分野の情報データベースが存在するため、情報を得るためには簡単でスピーディである。反面、情報選択に関する正しい認識(知識)が必要であり、保健指導用のパンフレットを作成するには内容の吟味が必要となる。正しい情報を得るための知識として、今後授業内で文献検索の方法を伝える必要が示唆された。

## VII. 結論

母性看護学での学びは、学内での学習が臨地実習で活用できないことが多く、課題も多かったが、パンフレットの作成や保健指導演習の導入等により、学生たちの学習効果を高めることにつながることが示唆された。反面、学生は安易にインターネットから情報を得る傾向にあることが明らかとなり、今後授業で正しい文献検討の方法を徹底させる必要性が示唆された。

以上の結果を踏まえ、机上の学習が臨地実習に活用できるようにする工夫として、パンフレットの作成、パンフレットを活用した保健指導演習は有効であると言え、臨地実習でのパンフレット活用の方が広げられるように支援していく必要がある。

## 参考文献

- 1) 文部科学省 (2011) : 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告.
- 2) 森恵美, 高橋真理他 (2014) : 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論, 医学書

院, 34-35.

3) 前田規子, 中尾優子, 宮原春美他 (2002) : 基礎看護教育における母性看護学実習の展開, 長崎大学医学部保健学科紀要, 15 (1) , 61-67.

4) 太田操編著 (2009) : ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程, 医師薬出版株式会社第2版.

5) 逸見英枝 (2006) : 成人看護学におけるヘルスプロモーション教育での学生の学び - 健康教育パンフレット作成を取り入れて -, 新見公立短期大学紀要第27巻, pp21-32.

6) 総務省「平成24年通信利用動向調査」